令和７年度

総合型選抜入試１期入学試験

基礎学力試験問題

（小　論　文）

１．試験時間は、６０分です。
２．問題は、この冊子の１～５ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
３．問題や解答を、声に出して読んではいけません。
４．印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
５．問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
６．終了の合図があったら、すぐに筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
７．この問題用紙は、持ち帰らないでください。
８．不正な行為があった場合には、解答をすべて無効とします。
９．答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10．その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学　保健医療学部

受験番号		氏　名	

20240913-1b

重症化が速く生命危機が差し迫っている場合、一刻も早く医療機関に行かなければならないため、救急自動車（以下、救急車）の要請が不可欠となる。一方、緊急度の低い症状であれば時間的余裕があるため、必ずしも救急車の要請の必要はない。緊急度の高い傷病者の下にできるだけ早く救急車が出動し、医療機関へ搬送するには、地域の限られた社会資源である救急車を有効活用するための仕組みが必要である。

傷病者が医療機関へ救急搬送されるまでには、緊急度を判定する場面として、家庭での自己判断、電話相談、119 番の通報、および現場における救急救命士による判断の 4 場面がある。119 番通報する前に、急な傷病に対して医療機関を受診するか、救急車を呼ぶか判断に迷った際の相談窓口として「救急安心電話相談（＃7119）」があるものの、この電話相談を知っているか否かに関する令和 4 年度第 1 回インターネットアンケート（千葉県健康福祉部医療整備課調べ）では、回答者数 278 名中、80.6%が「知らない」と回答していた。

問題　次の問いに答えなさい。

問１　表 1 は「救急車の救急出動件数及び搬送人数の推移」である。

１）　令和元年に比べ令和 4 年の救急車の救急出動件数は何件増加しているかを求めなさい。

（　　）件

表 1　救急車の救急出動件数及び搬送人数の推移

年	出動件数	搬送人数	A
平成 23 年	5,707,655	5,182,729	524,926
平成 25 年	5,915,683	5,346,087	569,596
平成 27 年	6,054,815	5,478,370	576,445
平成 29 年	6,342,147	5,736,086	606,061
令和元年	6,639,767	5,978,008	661,759
令和 4 年	7,229,572	6,217,283	1,012,289

出典：令和 5 年版 救急救助の現況　I 救急編 第 15 表（総務省消防庁）

＊出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

２）　令和 4 年の救急出動件数は平成 23 年と比べて約何%増加しているか、①～③の番号で答えなさい。なお選択肢の値は小数第 2 位を四捨五入している。

①　8.9%　　② 14.0%　　③ 26.7%

番号（　　）

3）　表1のAの数値は各年の救急車の救急出動件数から搬送人数を差し引いた値である。Aに当てはまる言葉として最も適当なのはどれか、①～⑥の番号で答えなさい。

① 出動件数に占める搬送人数の割合
② 搬送人数に占める出動件数の割合
③ 搬送人数の増加率
④ 出動件数の増加率
⑤ 救急車の非搬送件数
⑥ 救急車の非出動件数

番号（　　）

問２　図1～3はそれぞれ「事故種別、年齢区分別、傷病程度別の救急車による搬送人数と5年ごとの構成割合の推移」である。次の①～⑤のうち、図1～3から読み取れるものを2つ答えなさい。

① 急病によって搬送された者の割合は20年間で減少傾向にある。
② 令和4年の交通事故による搬送人数の割合は20年前と比べて約3分の1である。
③ 搬送人数に占める高齢者の割合は20年間で減少傾向にある。
④ 令和4年の中等症の割合は20年前と比べて約2倍増加している。
⑤ 軽症の搬送人数は中等症より高い割合で20年間推移している。

番号（　　）と（　　）

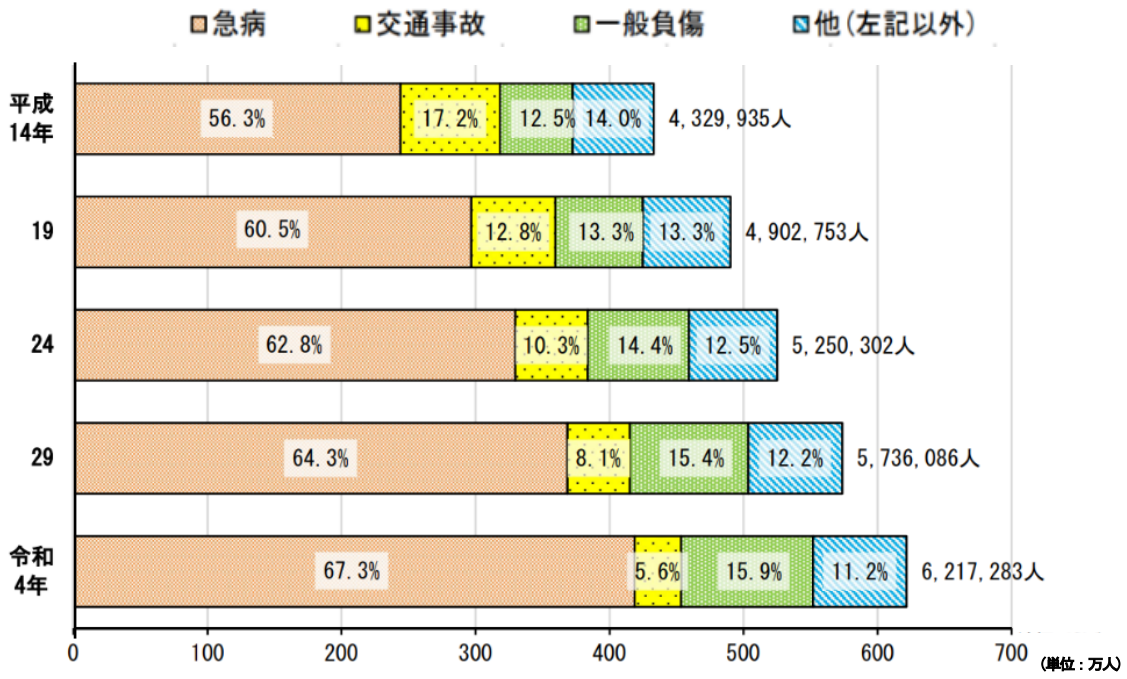
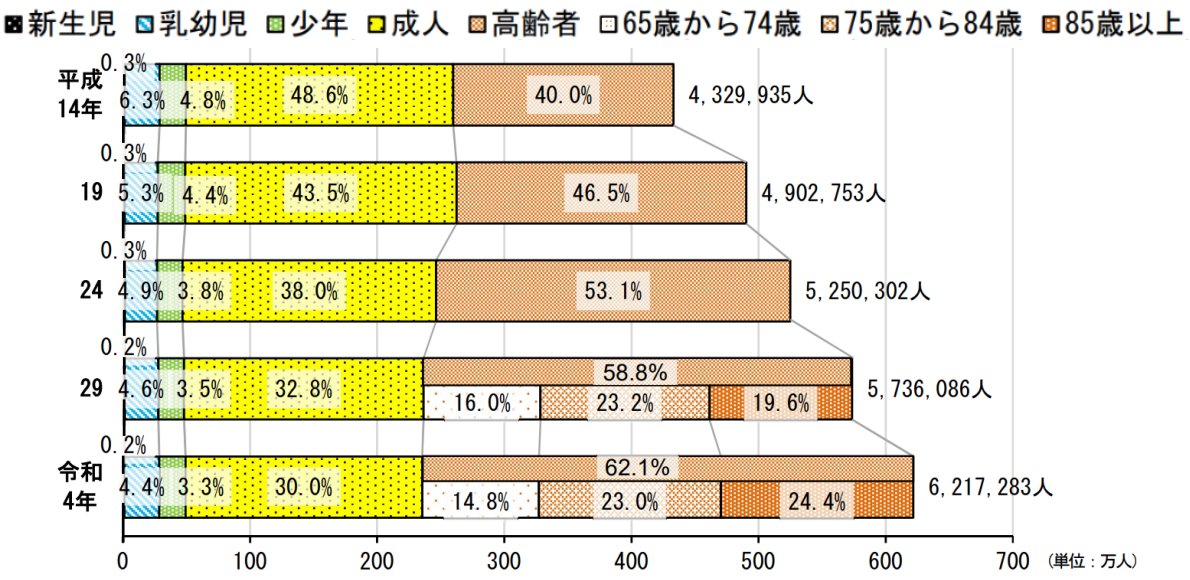


図1 事故種別の救急車による搬送人数と5年ごとの構成割合の推移



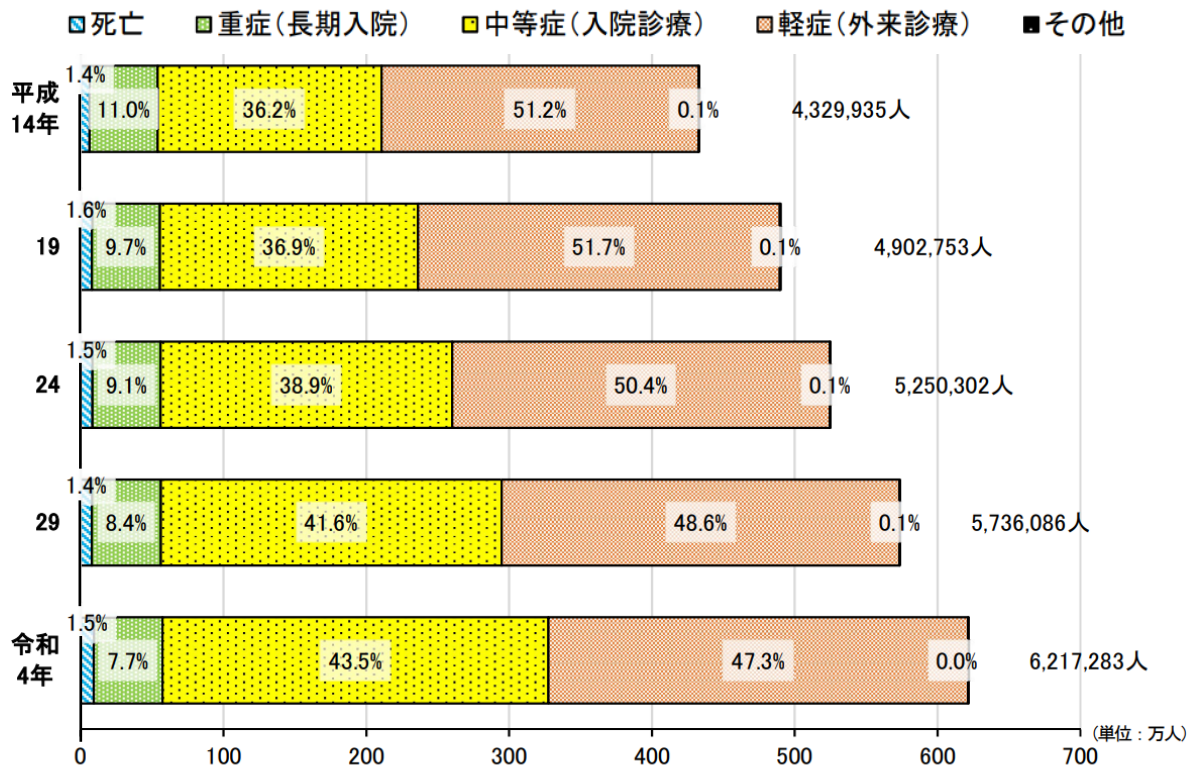
＊年齢区分の定義

新生児：生後 28 日未満の者　　少年　：満 7 歳以上満 18 歳未満の者

乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者　　成人　：満 18 歳以上満 65 歳未満の者

高齢者：満 65 歳以上の者

図 2 年齢区分別の救急車による搬送人数と 5 年ごとの構成割合の推移



＊傷病程度の定義

死亡　　：初診時において死亡が確認されたもの　　重症(長期入院)：3 週間以上の入院を必要とするもの

中等症(入院診療)：重症または軽症以外のもの　　軽症(外来診療)：入院を必要としないもの

図 3 傷病程度別の救急車による搬送人数と 5 年ごとの構成割合の推移

図 1～3 の出典：報道資料「令和 5 年版 救急救助の現況」の公表 図 6.8.10（総務省消防庁）

＊出題の都合上、部分的に省略・改変してある。　＊割合の合計は端数処理のため 100%にならない場合がある。

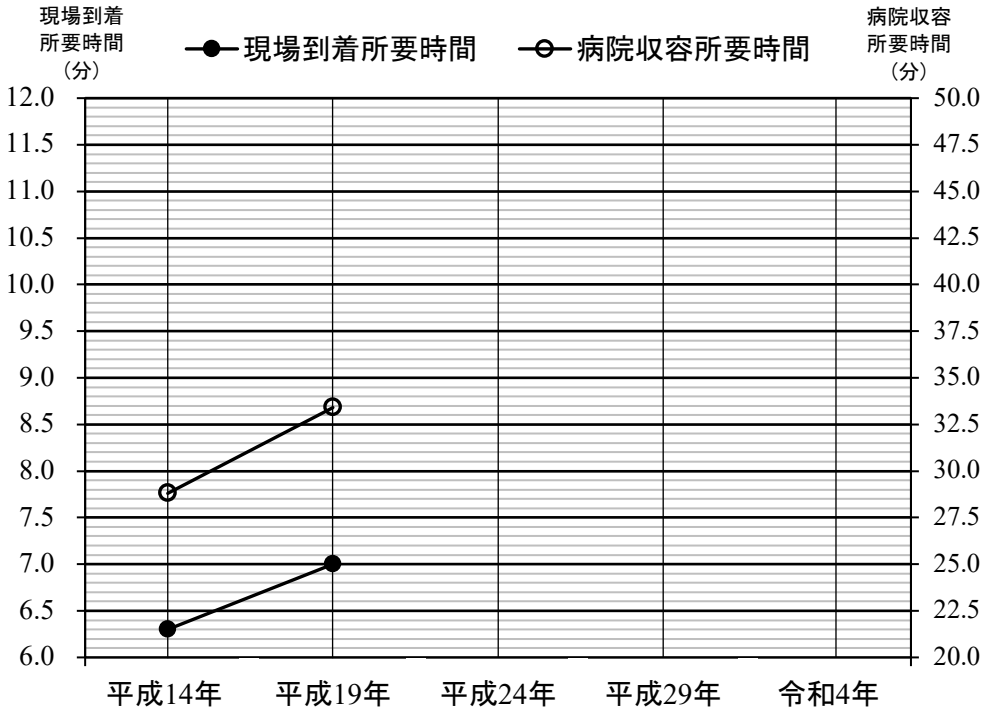
問３　表 2 は「救急車の現場到着所要時間および病院収容所要時間の推移」である。平成 19 年までの折れ線グラフを参考に、それ以降のグラフを完成させなさい。なお、病院収容所要時間とは入電から医師引継ぎまでに要した時間である。

表 2　救急車の現場到着所要時間および病院収容所要時間の推移

年	現場到着所要時間(分)	病院収容所要時間(分)
平成 14 年	6.3	28.8
平成 19 年	7.0	33.4
平成 24 年	8.3	38.7
平成 29 年	8.6	39.3
令和 4 年	10.3	47.2

出典：令和 5 年版 救急救助の現況　Ⅰ救急編 第 49 図（総務省消防庁）

＊出題の都合上、部分的に省略・改変してある。



問４　冒頭の問題文やこれまでの設問を踏まえ、救急車を真に必要とする人が利用できるためには、具体的にどのような取り組みが必要であるか。理由とともにあなたの考えを述べなさい。なお、解答は 400 字以内にまとめなさい。

100

200

300

400